第二回　あるかぽーと・唐戸エリアマスタープラン推進会議　議事録

日時	２０２３年１１月７日（火）　１７：００～１８：４５
場所	市役所　本庁舎西棟５階　大会議室
参加者（委員）	下関市　前田市長 下関商工会議所　嶋本専務理事（川上委員代理） 株式会社山口フィナンシャルグループ　矢儀常務執行役員（椋梨委員代理） 一般社団法人下関観光コンベンション協会　冨永会長 株式会社星野リゾート　星野代表 一般社団法人下関２１世紀協会　中野理事長 協同組合唐戸商店会　山口理事長 山口県飲食業生活衛生同業組合山口支部　青木支部長 学校法人國學院大學　梅川教授 公立大学法人下関市立大学　杉浦副学長

Ⅰ　開会

前田委員長　皆さんこんにちは下関市長の前田でございます。本日は第２回あるかぽーと・唐戸エリアマスタープラン推進会議の開催にあたりまして、皆様方お忙しい中、星野代表を始め、推進会議委員の皆様方そして、傍聴にもたくさんの方にご参加をいただきましたことを心から感謝申し上げます。推進会議第１回目を前回立ち上げまして早いものでもう５ヶ月が経過いたしました。その間委員の皆様方には、度重なるデザイン会議を始めご労苦をおかけいたしましたけれども、今日もいろいろ報告議論が進んでいくわけですが、様々なカテゴリー別にテーマを決めて議論を深めていただきましたことに心から感謝申し上げたいと思います。

また、事業的なものとしてはリゾナーレ下関も８月に着工、起工式も盛大に行われ皆様方にも大変期待をいただいているわけでございますし、下関がかねてから事業として継続してきました、例えば海峡花火大会であったり、食の祭典グルメフェスであったり、全てがたくさんの方々にお越しいただきました。やっぱり改めてこの関門海峡の景色って素晴らしいよね、この素晴らしい素材を今からこのメンバーでいかに磨いていけるか、素晴らしいこの議論を進めてこれていることにですね、たくさんの皆さんからご期待を寄せていただいております。

本日はこの上半期のデザイン会議で特に力を入れてご議論いただきました港湾緑地のデザイン、それから交通対策などにつきまして、専門家の皆様方からご提案をいただく他に、来年度に向けた方針やスケジュール、他にもエリアの今後を左右する課題もございますので、推進会議委員の皆様におかれましてはぜひ忌憚のないご意見をいただければ大変ありがたく思っております。どうぞ皆さんよろしくお願いします。私から以上です。ありがとうございます。

【委員紹介】
司会より出席委員を紹介。新任委員の青木委員よりご挨拶。

青木委員　皆様ご承知の通り、下関はふぐの取り扱い日本一、鯨の水揚げ日本一、そしてアンコウの水揚げ日本一と、日本一が三つあるんですけども、ほとんどその素材ばかりに目がいって、それを調理する技術や料理人、そんなところに

目が行くことはほとんどありませんでした。その中で私達は観光の柱の一つである飲食というのをですね、しっかり立てて、その魅力を発信していきたいというふうに思っております。その中で、この夏に山口県と下関市と組合が、日本で初の包括連携協定というのを結びまして、観光の活性化、食の活性化、そして災害時のいろんなボランティアや食育、そういったものにしっかり取り組んで、飲食業の社会的機能をしっかり果たしていくと、そういったことで市長といろんな方々と手を携えてですね、今やっております。

今朝、日本の商業捕鯨のシンボルである捕鯨母船の日新丸が最後の鯨肉の陸揚げしました。そこで最後のセリがありましてね、今までキロ５０万円というのが最高の値段でありましたが、青木頑張れ頑張れといろんな方が言われましてですね、キロ 80 万という値でセリ落とされました。ぜひそうした魅力も、多くのみなさまに味わっていただければと思いますので、今後ともよろしくお願いします。

Ⅱ　議事

【１．カイキョーリボーンプロジェクトの始動】

デザイン会議（カイキョーエリアマネジメント吉田委員）より、資料１に基づきマスタープランの概要を説明（説明の詳細は議事録では割愛）。以下審議。

北島事務局長　プロジェクトの根源となる価値それから、プロジェクトのネーミングであったり、ロゴマークのモチーフであったりする考え方についてご説明をいただきましたけれども、委員の皆様何かご質問ご意見等ございますでしょうか？

→意見無し

【２．A 地区再公募に向けた検討】

【３．ハードデザインの進捗状況】

北島事務局長より、資料２に基づき A 地区の再公募に向けた検討状況、デザイン会議委員（stgk 熊谷委員及び LEM 空間工房長町委員）より、資料３に基づきハードデザインの進捗状況について説明。以下審議。

北島事務局長　ただいま A 地区の話それから緑地のご提案をいただきましたけれども、委員の皆様、ご意見ご質問等ございますでしょうか？ぜひ、エリアの中心になります非常に大事な場所でございますので、積極的にご意見、ご質問いただければと思います

星野委員　私、観光をやっているものですから、ご提案のデザインが、良い季節の良いときには素晴らしいというのはよくわかるのです。芝生・噴水・光ですけど、観光事業は年間通して稼がなきゃいけない、金利が冬も夏も同じ率で係ってくるものですから、年間通して稼働していくってことを考えたときに、やっぱりどうしても日本の場合は、冬があるんです。ですから冬の私の経験では、水盤・噴水っていうものが、なかなか冬にうまく集客の魅力として機能しないケースがありまして、先ほど、昼間は止まっていて夜は光がっていうのは夏とか春とか温かい季節には私はイメージ的にすごくいいと思うんですけど、どうしたらこの日本の観光産業の課題でもある年間平準化を達成するときに、せっかく作るものが、夏休みとかピークシーズンには機能するんだけど、一番頑張らなきゃいけない、冬またオフシーズンにも魅力的な機能になるかっていうのは、もう一度ご検討いただければいいなと思いました。

熊谷デザイン会議委員　水盤に関しては、横浜のグランモール公園も我々が設計したものなんですけど、やっぱり冬は水盤止めてます。フラットな床になっていてクリスマスツリーのイルミネーションとか、それからクリスマスマーケットが出るような、そういう広場として使われていたりします。やっぱりフラットで車も高耐荷重まで乗れるとか、そういったハイブリッドな使い方ができるような広場、東京駅の丸の内駅前もそういう使われ方になっていますが、そういったものにすることで、夏の伸びるときにさらに伸ばして、冬も冬なりのしつらえを受け入れられるような状況を作る。そういったことを目指せればいいのかなと今は考えています。

星野委員　そうですね。なので、全体の計画の中にぜひ冬のしつらえというかイメージを入れてもらいたいのと、それからクリスマスは、どうしても年末年始以降なかなか通用しないんですよね。一番厳しいのは実は１、２月から３月までの、このシーズンの観光なので、どうしても冬っていう概念で１月、２月どうするのかっていうことを考えてほしい。12 月は確かにクリスマス、我々の場合 11 月はハロウィンとか言っていまして、一方で 1・2・3 月をどうするのかっていうようなそういう年間通して日本の観光とか日本の旅は、二十四節気１年間をもう 24 に分けて魅力を出していかなきゃいけないんです。そういう視点でこの広場も、考えるとどうなるだろうなという、一番、おそらくこの地域の観光が大変なときに、この魅力がどう光ってくれるのかっていうことを、計画していただけると、勇気が持てます。

長町デザイン会議委員　夜間景観としても、同じ宿題を長門湯本温泉でもいただきまして、現在、長門湯本温泉は長門の文化にちなんだみすゞの灯をやって、年間で一番来街者が多い状況を２月にたたき出しています。ここの場合、あの大噴水に関しては、１年のうちどこかでひと月休まないといけないんですね。必ずメンテしないと海の噴水っていうのは駄目なので、従って２月は噴水ではないことを仕掛けていく。実はまだまだ下関自身の場所が非常に個性的なので、風も吹く海際で見えるものも違う、大型のタンカーが動く何かそういうものを組み合わせた冬の新しいしつらえは灯りで出来るんじゃないかと思っています。それが１ヶ月休む２月と思っていて、何かホームランを打つ手立てをみんなで考えていく必要があると考えています。

星野委員　なかなか冬に水の魅力が効いているっていう事例があんまりなくて、そこを、さっきおっしゃっていたように、水がなくなったときに他のものでということ乗り越えていけるようになると良い。それから、あの海峡に向かって大きく出ているのも、さっきの長町さんがおっしゃったように夜だけ出てくるっていうのは、僕はいい要素かもしれないと思っています。世界の観光で三大行きたくない場所の中の一つにマーライオンってありまして、これはもう 24 時間ずっと季節関係なく出し続けてシンガポールの気候だから通用するんですけど、そうはならないようにしなきゃいけないなとちょっと感じています。なのでライトアップと一緒に出てくるとかということがあると、その時間帯に合わせて来てくれたりする。そういうちょっとした仕掛けというか考え方も必要かなと感じました。

梅川委員　ご提案ありがとうございました。ここのエリアというのは A 地区含めた全体の土地の付加価値を高めるという重要な空間だろうなって思っていて、どういった提案が出てくるのか期待していたんですけども、とてもユニークっていうのが良いなっていうふうな印象を持っています。このイベント広場芝生、もう既に芝生が植えられていますけども、さらに何か新しい芝を植え替えたり、特別なしつらえにされるのかどうかというのが一つ質問です。

　また、並木ですけれども、ここに例えば花木のような物を入れるのかどうか、いつも常緑樹なのかどうかなどその辺の話と、それからこの空間をどう使うかっていうそのソフトの話なんですが、やっぱり市民にも任せきってしまうのはまだまだ先の話で最初の段階では何か仕掛けをしっかりと作っていかなきゃいけないと思うんですが、それをやるのがエリアマネジメント組織になっていくのかなというふうに感じているんですが、その辺のハードとソフトの関係性について、少し解説いただけるとありがたいなと思います。

熊谷デザイン会議委員　まず現状の芝生広場なんですが、多少アンジュレーションが強く効いているのと、中に高木が植わっていて、視認性のコントロールは必要だろうと思います。それから単なる芝広場ではなくて、電源が配備されていてイベントしやすいとかそういったインフラの取り回しなんかも考えると芝生広場を、もう１回作り直すというようなことは必要かなというふうに思っています。２点目の樹木に関してはまだ細かい点については、特にこの場所は塩の問題と風の問題が強いので、どういった樹木が合うかということをかなりシビアに選んでいかなくてはいけないと思っていながらも、やはり季節感があるものっていうのは絶対必要だろうなというふうに思ってるので、常緑で常にエバーグリーンというよりは、落葉で花が咲くですとか、そういったものをしっかり入れていけたらなというふうに思っています。

イベントに関しては、おっしゃる通りエリアマネジメントと一体となって今の段階から既にここをどう使うっていう想定をしながら、その使い勝手に対してどういうしつらえを仕込んでいったら、より参加しやすくなるかということをやっていくのと、社会実験・実証実験でいろんなことをまずやって市民の方にも知っていただきながら、ここでこういうことできるんだったら、私達もこれやりたいとか、そういったことをやっぱりできるだけ多く広めていく、そういったことをしっかりやっていくのがポイントかなというふうに思っております。

長町デザイン会議委員　後ほど説明があると思うんですが、３月に現状のあの状態で、夜間のナイトピクニックとか、シートを貸し出してやってみるとか、そういうことをやってみようとしていますので、手探りをしながら、やれたらと思っています。

冨永委員　初歩的な確認なんですが、ここの管理というのは、エリアマネジメントの皆さんがやられるのか、それとも A 地区の事業者が将来的に決まったときにやるのか、それから完全に市民の自由な形で役所がある程度管理してやるのか、この辺はどうなんですか。

北島事務局長　それも含めてこれから考えましょうという状態です。もともと A 地区の公募をかけたときには、どのくらいの管理をしていただけますかっていうことを、事業者さんにご提案いただいてそれを評価ポイントにしますよということでご提案に任せるって形になっておりました。ただ、これ自体について、今いろいろ非常に考えているところでございます。これも踏まえてですね、誰が何を管理する形が一番いいのかっていうのは、まさにこれからの検討課題と考えています。それで A 地区の事業者が今度は逆に誰も手を挙げてくれないとなってもいけないので、そこはいろいろヒアリング等を重ねながらということになろうかと思います。

冨永委員　ぜひその辺は皆さんで話し合って決めていただきたい。エリアマネジメントの方たちがやるのが私は一番いいかなと思っています。市民に任せると何となくイメージ的にキッチンカーと手作りの小物と、そしてアマチュアミュージシャン、このイメージがね、私は取れない。それが世界一を目指すようなところになるかっていうところがあるので、ぜひともいろんな意味で、ここでくつろぐということを実現してほしい。下関市民の人たちは、何かあるたびにすぐ公園を作ってくれって言うのだが、実際に公園でくつろいでいる姿というのをほとんど見たことがないですね。だから、そういう意味においても、やはりここは観光の一つの目玉のという位置づけの中で、そこで市民の皆様も、興味があったら来るというような流れを作っている。市民のために何かやりたいっていうことよりも、むしろ観光客の皆さんのために何かこの辺を繰り広げていただきたいなというのが、観光協会としてもぜひお願いしたいというところ。

中野委員　今、既存ロンドンバスがこの芝生のところにあると思うんですけども、この取り扱いというのはどのようにお考えなんでしょうか。

熊谷デザイン会議委員　今の位置からは移動したいと思っています。というのは、やはり視認性を考えると、ちょうどタテミチというか山側から見ても、ロンドンバスが海峡を塞いでいる状況にあるので、何かちょっとずらすのか、どこかに移動することができなかなというのがランドスケープの視点からの提案です。

前田委員長　５ヶ月前にスタートしてこの期間、本当に皆さんには素晴らしい議論を重ねていただき本当ありがとうございます。今、熊谷委員と長町委員から本当にわくわくするお話をいただきました。

まず私からはですねこの A 地区の公募がこのような形になって、これは我々想定ちょっと外れた内容になっておりましたのでこれは市としてどういうふうにきちんと対応していかないといけないかと心配していたところであるんですが、こちらの緑地帯の方を先行して作っていくことで、今の A 地区に新しく再公募をかけたときに、良い方が来ていただけるといいなと、この考え方には非常に賛同しておりますので、まずこの形をきちんと進めていただくということが大切だろうと思っています。

そして、もう本当にこのあるかぽーとエリアというのは、もう私が市長になる前もはるか昔、平成の１０年代の頃から本当にいろんなことが立ち上がっては消え、立ち上がっては消えてきたエリアでありまして、その間、様々な市民の方々、地主の方々、近郊の自治会などいろんなご意見が重なってきたエリアです。そういったものを、この絵だったら、相当網羅して、クリアできている内容になるのではないか。単純に背の高い箱は絶対に建てて欲しくないという声であったりとかもきちんとクリアできますし、もう一つ港湾が国と連携して作った汐入池はゴミが溜まるような状況になってしまっている。あのエリアは、昭和 62 年設計のときは水がバンバン入ってきて、関門海峡を象徴する素晴らしい企画になるはずだったのが、課題の多い状態になっていまして、あれも綺麗になっていくのであれば、本当に願ったりということで、ぜひ進めていただきたい。また、星野代表からもありました冬の時期をいかにクリアするかという点は、まさに我々行政がなかなかパッとそこに思いつかない大切な要素だと思っておりますのでその点も含め、お願いできればと思います。加えて、観光客、市民どちらにこの優位性というかあの、愛していただけるかっていうことも含めてですね、これはクリアできるんではないかなというふうに思います。

【４．交通・駐車場に関する検討】

デザイン会議委員（LKP 榎本委員）より、資料４に基づき唐戸周辺の混雑緩和に向けた交通対策素案について説明。以下審議。

杉浦委員　車対策という意味では非常に効果的な提案かと思うけども、観光需要への対応ということを考えるとやはりその公共交通をもっと利用してもらう方向にシフトしていくべきかと。勝手なイメージですが、車で来てらっしゃる方々はどっちかというと近隣の福岡辺りから来る方が多いんじゃないかという想像するんですけれども、そうするとなかなか宿泊には繋がらないので。終わったら帰ってしまうということになるので、やはり経済効果を考える場合、宿泊してもらうためにも公共交通を利用して来ていただくと良いのではないかと思います。ただ、残念ながら下関って公共交通で行くのが全然面白くないといいますか、例えば新幹線で降りて、そこから下関に行くのに非常に不便ですし、なかなか年季の入った電車しか走ってなかったり、そういったところでせっかくですから面白い乗り物でいけるような、門司から船で来ていただくというのもあるかと思うんですけれども、下関市内の交通も、もう少し面白いものを検討していただくと、グリーンスローモビリティも実験されてますけど、多分アクティビティとしては面白いんですけれども、観光需要を満たすほどの供給量にはならないんじゃないかと思いますのでその辺もひっくるめてですね、車以外で来ていただける何かを検討していただくといいんじゃないかと思います。

榎本デザイン会議委員　まさにその通りだと思っています。今日はまず課題が、やっぱり唐戸周辺の交通の課題として最優先取り組まなきゃいけないことが渋滞緩和だったので、そこに優先的に着手をしたところなのでそういうことになっていますけど、まさに下関駅から唐戸にどういうアクセスをしていくのかとか、門司とどう連携をしていくのか、それ以外にも公共交通でお越しいただくということは課題だと思いますので、そこは引き続き考えていきます。

矢儀委員　施策については、今から具体的に検討されるということで、それぞれ有効な手立てだと思うんですけど、結構、うろつき交通、下関に来て初めて状態を知ってどう解決していけばいいのかっていうのが、なかなかその現場に来ないと情報がわからない。可能であれば、本当に一番いいのは下関を訪れたりいろんなサイトにアクセスしたりするときに状態がわかる手段。これによって、自分で判断ができるような情報提供を、旅行する前からアクセスできる形で対策をとらないと、おそらく来ていろいろ人的に誘導していっても、なかなか現場で混乱するだけだと思うので、そういう仕掛け仕組みを、デジタル対応になるかもしれませんけど考えて実装していかないといけないのではないか。

今これが現状、短期的な視点で分析をされていますけど、今からエリアがどんどん開発されていく中で、果たしてこの今の駐車場の数と周辺の駐車場の数だけでも大丈夫なのかどうかっていう問題が中長期的には起こってくるので、ある程度長い目線で見たときに、どういうふうな全体の戦略の進め方とエリア開発の進め方と、その中でこの駐車場問題を解決していくかっていうのを同時並行で議論していかないといけないというふうに思ってますんで、視点もちょっと長めのものも入れながら、同時並行でやる必要があるかなと思います。

榎本デザイン会議委員　まず１点目ですが、まさにそうでうろつき交通が、多分出発するときにカーナビに入れてそのルートに沿ってくるので、何も調べずに来て、混んでいるからということで左折右折で最後に入ってくるというのが多分うろつきの原因なんだと思います。なので、どのタイミングでどういう情報で出すかというのは、これから検証していかなきゃいけない。今回まずやろうと思っているのは、サービスエリアやパーキングエリアで情報を出すと、そこでどんな行動が起きるのかや、自動車で来るということは変わりませんけど、何かしら門司で降りるとか、経路も細江の駐車場に停めるとかですね、そういった行動が促せるのかなと思っているので、そういった結果をですね、きちんと検証して、どういう情報探索と行動の意思決定のメカニズムになっているのかということを、徐々に検証しながら、施策を高度化していきたいなというふうに思っています。

中長期の駐車場のボリュームに関してはまさにその通りだと思っていますのでグリーンベルトの使い方とかですね、そういったところも含めて、駐車場のあり方も考えていかなきゃならないかなと思っていますが、世界水準のウォーターフロントといってですね駐車場がバンバンあるというのもどうなのかなか思うところもあるので、先ほどのご指摘の公共交通の利用促進とあわせてですね、どういったものが適切なのかということはまた検討していきたい。

星野委員　マスタープランの中でのウォーターフロントのモビリティについては、今いろんなモビリティがどんどん出てきているので、例えば、サンフランシスコでは既に運転手のいないタクシーが走っていますし、ウォーターフロントのところを回遊する方法は、公共交通に似たような方法でもっと活性化していくことが重要なんじゃないかなと思っています。

私、あちこちで観光地を見ているんですけど、渋滞の議論というのは、かなり印象的な議論が多く、渋滞が起こっているから解決しろっていう方がたくさんいらっしゃるんですけど、渋滞を何か測定する方法が欲しいですよね。ゼロにしろって言われると、すごく難しいと思っていまして、どの程度の渋滞は許容するのかっていう議論がないと、何をやっていいのか、というのが、うまくいってないのかってこともわからないんで、例えば先ほどの議論で言えばインターから唐戸まで一体何時間かかっていて、それをどのくらいまで短縮するのが許容できる渋滞なのかっていう目標の渋滞のレベルっていうんですかね、それを測定するのはすごく大事だと思っています。

パークアンドライドが、あちこちでトライしている観光地ありますけどあんまりうまくいっていない。やっぱり世界を見ると、渋滞の解消はやっぱり需要の分散。さっき三つの方法があるって言いましたけど、これはもう、来ちゃっている人をどうマネジメントするかって三つの方法なんですけど、そもそも来る方の数を、年間通して分散すると今の駐車場で足りるかもしれないんです。ですから、さっきの冬の課題ですよね。もう渋滞している人に、冬に来てほしい。これ、なかなか難しいとおっしゃる方もいらっしゃるかもしれませんが、実はそれができているところが出てきていまして、北海道なんかでもやれてるところが出てきているんですよね。なので、その需要を年間通して分散させる、需要をいじるっていうことを、やっていくのが私はいいと思っています。先ほど駐車場の話とか、いろんな設備の話が出てきましたけど、逆に私の地元の軽井沢では、渋滞が大問題だった時期といいますか、今でも問題なんですけれども、渋滞が許容できないぐらいの渋滞の日っていうのはですね、年間測定すると、30 日ないんですね。ですから、年間の大半の日は、設備は余っているわけです。なので、その設備投資したものを、駐車場もそうですけど、有効活用するにはやっぱり需要を分散させる方法っていうのをですね、この 11 月から、愛知県はそれに踏み出して愛知 Week っていうのを設定して、需要の分散に入ったりしています。例えば、福岡と山口県で大型連休を分散させるとですね、これ一気に需要が分散してきます。それをやっているのはフランスで、フランス ABC という三つの地区に分けて、もう 2 週間おきにズレて、大型連休を取ってくんですね。そろそろ日本の観光もこの需要をいじるっていうことやんなきゃいけないと思っています。

もう一つ、アフターコロナで世界の観光地が日帰りのケースで、渋滞緩和を含めたことをやろうとしているのが、日帰り顧客を予約制にしようというところが増えています。例えばニュージーランドのスキー場は、事前にオンラインでリフト券を買っておかないと当日行っても買わせてもらえない、売り切れるっていう状態が起こるんですね。つまり、1 日の入場制限を行っています。なので、今までの私達の感覚であると唐戸市場に入場制限するって有り得ないと皆さん思うかもしれませんが、ハワイのハナウマベイはもうそれがアフターコロナで、オーバーツーリズム緩和で始まりました。事前にオンラインで予約しておかないと、日帰り観光地の入口で入れてもらえないっていうことはですね世界で始まっているんですよね。これも一つの方法です。

実はこの渋滞問題っていうのは、道路の渋滞や駐車場の渋滞だけじゃなくて、それで駐車場を増やしてですね、たくさん停められちゃうと、今度、中のレストランを増やさなければいけない、中のコーヒーショップも渋滞になっていく、それから人が歩くところも渋滞になっていって、つまり来るのを処理すると、今度滞在しているところが人が多すぎるっていうところがあるんですよね。だから全体のバランスなので、この地域のですね、おそらく 1 日あたりのキャリイングキャパシティというんですけど、許容できる人数っていうのはあるはずなんですね。それを超えてくると本当の意味で顧客満足度を考えて、管理しようと思うのであれば私は最終的には日帰りの入場をコントロールする。スマートフォンでするという仕組みは必要ですし、それからその分、機会損失がその時起こるじゃないかという部分はやっぱ需要分散して、特に冬の需要に振り向けていくようなこの魅力作り、先ほどお願いしたようなですね、年間通して需要が分散出来る様な策に踏み切らないと、なかなか本当の意味での渋滞緩和っていうのが、道路だけ駐車場だけ見れば解決するって問題じゃないと感じます。

榎本デザイン会議委員　その通りだと思います。道路駐車場に関しては社会インフラですので、ピークに合わせて設計をするということは基本的にナンセンスだと思います。なので、できるだけ需要を平準化するということが交通側からも非常に望ましい状況だと思っていますので、一番上にですね点線で総量規制を書いていたんですけどどういう形でその規制が需要の分散コントロールができるのかということは、これからの議論ですけれども、交通側からもそういった観光地のマネジメントをきちんとしていくということが重要と考えています。

星野委員　事前に駐車場の予約をさせているところもありますよ。そうするとオンラインで駐車場が自分が行けるっていう人と、絶対行けない、売り切れになっちゃっているとわかりますから、そういう人は遠くに停めるとか、公共交通機関を使うとか勝手に誘導できる。だから駐車場だけでもオンライン事前予約制にするっていうのも手立てだと思います

前田委員長　私は駐車場問題・渋滞問題を、もう最重要課題だと思っていて。でも今日皆さんの話を聞いて、ちょっと自分の中でいろいろ考えが変わったというか、箱を作れば解決できるのかなと思っていたけれども、決してそうじゃないということと、それから、オンラインとかデジタルの力を使いながらシステムの力を使いながら、平準化できることを目指していきながらも、例えば下関市としての道路インフラを整備する側の人間、立場として、まだまだやるべきことがあるなって思いもあります。今まさに思いついたんですけど、例えば、ネットとかで、この道路検索して駐車場目標を決めたとしても、そこに行き着くまでの工程っていうのは人間なんである程度目視で確認しながら道を選んでいくわけなんですけど、インター降りて椋野トンネルを抜けたときに、看板は目標は左折しろって出るんですけれども、道路が 3 車線あるので、一番左の道路は左折専用なのでみんな観光客は一番左の車線に真面目にずっと並んでいるんですよね。しかし、1 個真ん中の道を使えばスムーズに行けて、市民ともそんなに競合しない道の使い方があるのに、そこはさすがにデジタルとかナビでは誘導できてないところを、市が看板とかを目視でどうそこを緩和させてあげるのかだとか、ちょっと今、ばあっといろいろ思いついたんで、また議論していきたい。やるべきこと、駐車場を作ってクリアできるんじゃなくて、今あるものをどう成長させていくかでクリアできるということは、十分可能性としてあるので、取り組んでいきたいなと思います。ありがとうございました。

【５．今後の事業スケジュール及び次年度事業】

デザイン会議（HBP 木村委員）より資料５－１及び資料５－２に基づき３か年ロードマップ及び次年度社会実験について、北島事務局長より、資料５－３に基づき次年度事業案について説明。以下審議。

星野委員　A 地区はすごくポテンシャルのある場所だと思いますし、さらに周辺もできてくるので、3 年後は今よりそれを感じてもらえると思うんですけど、公募自体の方法について、自治体さんがやってらっしゃる公募の方法ってあまり知らないんですが、公募していることを知らない人が多いっていうことから、もっと世界に知らしめたい。公募の方法を幅広く知ってもらうと、いい人が出てくるチャンスが増えるんじゃないかなと思ったので、何かそこに工夫ができないかなっていうことをちょっと感じました。3 年間あるんで、そこの議論をしていければ良いというふうに感じてます。

北島事務局長　来年度まさに公募要項の作成ということでまだ準備期間です。その段階からですね、いろんなプレイヤーを巻き込めるように、提案の仕方もそうですしいろんな方にお声がけしてお話伺うとかですね、そういうことも含めて考えていければと思います。

　そうしましたら、これから市といたしましてはですね、予算の編成に向けて議論を詰めているところでございますけれども、今ほどご説明を差し上げた大きなロードマップとそれから来年度の事業の方につきましてこの方向で検討を進めて、行きたいと思いますけれども、ご異議ございませんでしょうか。

→異議無し

４．　閉会

前田委員長　皆さん、長時間にわたりお疲れ様でございました。確実に一歩一歩、前進してきていることに非常に嬉しく思いました。日本一の、世界に誇る、ウォーターフロントエリアを、この関門海峡で作っていきたいということで皆さんに引き続きお力をいただければというふうに思っております。今、最後副市長の方からですね、いよいよこの皆さんと今日は協議して、決まったような話っていうのは来年の予算編成に向けて今から入っていくのですが、担当部局はですね、これだけのメンバーでこれだけの内容で決まっていけば、かなり自信が出て、財政部にはですね、もうあんまり丁寧に説明しなくても予算がつくとは思わないよう、謙虚な気持ちで丁寧に財政部局との議論を進めていただければ、やっぱり市役所もですね、このそれぞれの立場がいろいろある中で頑張っておりますから、あとは市民の皆さんがやっぱり観光地というのは、どれだけ人が来て賑わっても、生きている私達が不便な街になってはいけないとは絶対思っていて、その点についてまた皆さんにご指導いただきながらですね、市民に愛される、愛される日本一のベイエリア・ウォーターフロントを作っていくということが、私は市長としては大切だと思ってますんで、その点について皆さんに、また引き続きお力をいただきながら、皆さんと一緒にこの街を作っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。今日は遅くまで本当に皆さんありがとうございました。

以上

※ 分かり易くするために、要旨を変えずに議事録の一部を加工（助詞修正、主語や修飾語の加筆等）しています。